

湘南医療大学 ティーching・ポートフォリオ

大学名：湘南医療大学

所 属：保健医療学部 看護学科

名 前：萩原 裕子

作成日：2026 年 5 月 18 日

1. 教育の着任

湘南医療大学は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念のもと、人間の尊厳を基盤とし、地域社会に貢献できる医療人の育成を教育理念として掲げ、専門的知識・技術の習得にとどまらず、他者への思いやりや倫理観を備えた医療専門職の育成を目指している。

私は、この建学の理念が看護の本質である「対象者一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、その人に向き合う姿勢を大切にすること」と深く重なっていると感じている。

私は、看護師として臨床経験を積んだ後、看護教育の分野に携わってきた。看護専門学校での教育経験を経て、現在は大学において、主に1年生と2年生を対象とした講義、実技演習、臨地実習での指導を担当している。

大学教育における学生の特徴として、学生数が多く、多様な背景や成熟度をもつ学生が在籍していることが挙げられる。その中で、看護師として必要な知識・技術だけでなく、患者の尊厳を守る姿勢や倫理観を育むことの重要性を強く感じている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念は、「自らの行為と対象者や周囲への影響を結び付けて考えることのできる看護師を育てること」である。

看護は技術の集合ではなく、人と人との相互の関係性の中で成り立っている。看護援助への対象者一人ひとりの感じ方や反応は異なり、正解が一つではない。そのため、学生自身が「自分のかかわりが対象者や周囲へどのような影響を与えるのか」を考え続ける姿勢を身に付けることが重要であると考えている。

2) 理念をもつに至った経緯

臨床現場において、同じ看護援助であっても、看護師の声かけや態度一つが、患者の安心感や身体反応に大きく変化をもたらす場面を経験してきた。また、過度な介助が患者の自立や尊厳を損なう可能性があること、反対に、適切なかかわりが患者の力を引き出すことも実感してきた。

教育現場においては、特に1・2年生は、社会経験や対人関係スキルが十分に成熟していない学生も多く、抽象的な倫理概念を理解することが難しい。そのため、「正しさ」を教えるのではなく、実技演習を通して自ら体験し、気づくことを重視する教育が必要であると考えている。実技演習や臨地実習は、看護学生が倫理的な姿勢を学ぶ重要な機会であり、「手順が合っているか」「技術を修得できるか」「試験に合格するか」だけでなく、対象者という、人に向けた行為であるという前提をもち、相手がどう感じるかを考え続けるという経験の積み重ねの場となるようにしていきたいと考えている。

3. 教育の方法・戦略

1) 実技演習

実技演習においては、以下の点を重視して指導を行っている。特に、声かけや説明の有無によって患者役の安心感や身体緊張が変化することを体験的に理解できるようなかかわりを意識している。

- ・患者役と看護師役両方を体験させ、立場の違いから生じる感情や身体反応に気づけるようにする
- ・技術の手順だけでなく、「どのような声かけやかかわりが対象者の安心につながるか」を問いかける
- ・学生が戸惑いや不安を感じた際は、それを否定せず、言葉にする機会を設ける

2) 講義

講義では、主にグループワークでの直接指導を行っている。知識を一方的に伝達するのではなく、学生が実際の看護場面をイメージしながら理解できるよう意識している。臨床経験に基づく具体的な場面の例を取り入れ、対象者はどのように感じるのか、看護師の行為がどのような影響を与えるのかを問いかけながら進めている。

3) 臨地実習

臨地実習では、学生が対象者とのかかわりを通して、自らの行為や言葉が対象者へ与える影響を考えられるよう支援している。学生が困難さや戸惑いを感じた際には、結果のみを評価するのではなく、なぜそのように考えたのか、対象者はどのように感じたのかを共に振り返りながら、対象理解を深められるようにかかわっている。また、学生が安心して相談や振り返りを行える関係づくりを大切にし、個々の特性や認識の段階に応じた支援を心がけている。

4. 学習効果

学生の振り返りからは、以下のような学習効果が確認されている。

- ・声かけや説明が患者の安心感や身体反応に影響することへの気づき
- ・環境調整や見守る姿勢が患者の自尊心を守ることへの理解
- ・安全と安楽を両立させた援助の重要性への認識

これらの振り返りから、学生が自らの行為と対象者への影響を結び付けて考え始めている様子がうかがえる。

5. 改善のための努力

学生の成熟度や集団の特性に応じて、指導方法を柔軟に調整すること心がけている。特に、雰囲気やゆるみやすい場合には、叱責によって抑えるのではなく、患者役の体験を起点に看護の意味へと引き戻すかかわりを意識している。

また、対話や振り返りを通して、学生の認識の段階を把握し、必要に応じて行動基準の明

確化を行っている。

6. 今後の目標

1) 短期目標

- ・実技演習における指導内容や評価基準を教員間で共有し、一貫性のある教育を行う
- ・臨地実習において、学生の行為と対象者の反応を結び付けたフィードバックを行う

2) 長期目標

- ・臨床経験に基づいた教育を体系化し、看護教育に継続的に貢献できる教員となる。
- ・看護師としての品位や倫理観を、学生が自らの行動として体現できる教育を実践する。